

●北総鉄道2018年度(上期)決算

沿線の住宅開発などにより、収入は増加。
しかしながら、施設などの老朽化に対応するリフレッシュ工事などによる
修繕費が増加したため、今年度上期は増収・減益

依然として、有利子負債720億円をかかえ、
累積赤字は未だ81億円と巨額

北 総 鉄 道 (上 期) 決 算 に つ い て

(1) 上期決算の概況

2018年度上期は、当社線の2期線沿線（新柴又～新鎌ヶ谷間）で、前年に引き続き、住宅開発が堅調でした。また、千葉ニュータウンエリアにおいても、印西牧の原地区を中心に戸建住宅の入居が進みました。

その結果、定期外旅客は、沿線人口の増加により、前年同期比5万4千人、0.9%の増加、定期旅客についても、前年同期比26万1千人、1.9%の増加となり、定期・定期外合わせて前年同期比31万5千人、1.6%の増加となりました。

表① 輸送人員と旅客運輸収入

		2018年度上期	2017年度上期	比較増減	前年同期比
輸 送 人 員	定期外	千人 5,982	千人 5,929	千人 54	% 0.9
	定期	13,689	13,427	261	1.9
	合計	19,671	19,356	315	1.6
旅客運輸収入計		百万円 6,332	百万円 6,260	百万円 72	% 1.2

営業収益は、旅客運輸収入63億3千2百万円に、京成電鉄からの線路使用料収入のほか、成田スカイアクセスの業務受託手数料収入、千葉ニュータウン鉄道からの負担金収入等を加えて87億2千1百万円と、前年同期に比べて1億5千9百万円、1.9%の増収となりました。

営業費用については、車両検査編成数の増加や開業後39年経過に伴う施設・設備の老朽化に対応するため、2017年度から概ね5年間で実施するリフレッシュ工事などによる修繕費増により、62億4千4百万円と前年同期に比べて2億4千1百万円、4.0%の増となりました。

以上により、営業利益は24億7千7百万円と、前年同期に比べて8千2百万円、3.2%の減益となりました。

また、営業利益に営業外収益と営業外費用を加味した経常利益は22億4千5百万円と、前年同期に比べて4千4百万円、2.0%の減益となり、法人税等を差し引いた四半期純利益も、15億4千5百万円と前年同期に比べて1千7百万円、1.1%の減益となりました。

以上の結果、当社が抱える繰越損失は未だ81億3千9百万円と、依然として厳しい経営状況にあります。

表② 比較損益計算書

(単位：百万円)

	2018年度上期	2017年度上期	差	増減率(%)
営業収益	8,721	8,562	159	1.9
営業費用	6,244	6,002	241	4.0
営業利益	2,477	2,559	△82	△3.2
営業外損益	△231	△269	37	14.1
経常利益	2,245	2,290	△44	△2.0
四半期純利益	1,545	1,562	△17	△1.1

表③ 貸借対照表

資産の部		負債及び純資産の部	
科目	金額	科目	金額
	百万円		百万円
資産の部		負債の部	
流動資産	13,636	流動負債	9,072
固定資産	84,407	固定負債	72,211
		負債の部合計	81,284
		純資産の部	
		株主資本	
		資本金	24,900
		利益剰余金	△8,139
		純資産の部合計	16,760
資産の部合計	98,044	負債及び純資産の部合計	98,044

(2) 今後の課題

前年に引き続き、2期線沿線、千葉ニュータウンエリアの住宅開発による沿線人口の増加により、今年度も増収が見込まれます。しかしながら、千葉ニュータウンエリアでは、今期も印西牧の原駅付近を中心に戸建て住宅の入居が進み入居戸数が増えたものの、少子高齢化や学齢人口の減少は着実に進んでおり、引き続き厳しい経営が続くことが懸念されます。また、多額の有利子負債をかかえている状況において、鉄道施設の老朽化に伴う更新工事など安全対策等の設備投資のための資金需要の増加は避けられない状況にあります。こうした中で、安全で安定的な輸送サービス継続のためには財務体質の改善が急務であり、このため経費の削減はもとより、有効な増収対策や将来の沿線人口の増加につながる施策を推進するなど、より一層の経営健全化に向け邁進してまいります。

以上